

第34回三原やっさ祭り（2009年）

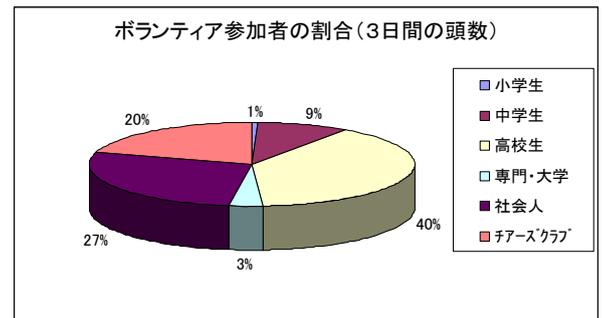
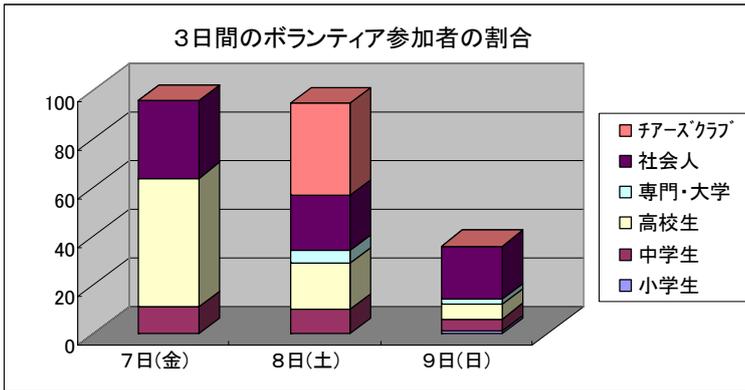
ゴミへらし隊エコレンジャー委員会 事業報告

第34回三原やっさ祭り実行委員会
ゴミへらし隊エコレンジャー委員会
委員長 安藤志保

1. 実施日時・参加人数

やっさ祭り3日間の人出は32万人

	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	チャーズクラブ	合計
8月7日	0	11	53	0	32	0	96
8月8日	0	10	19	5	23	38	95
8月9日	1	5	6	2	22	0	36
合計	1	26	78	7	77	38	227

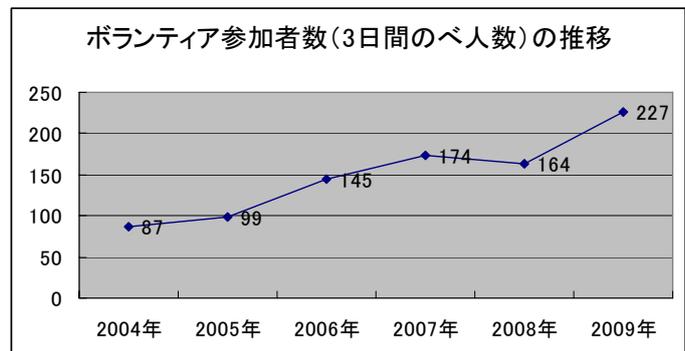


今年度は高校生の参加が飛躍的に増え、中には準備会議への参加やエコレンジャーショー出演してくれる生徒もあり、とても頼もしく感じた。

ボランティア参加者が集中した金曜日は、土日に使用するリユースカップの準備を金曜にするなど仕事を確保する対策をとっていたが、結果として人数過剰で「やることがない」「ゴミ拾いにまわってもゴミが落ちていない」といった状況が出てしまった。一方、来場者の多い土曜日、花火会場と駅前会場の二手に分かれる日曜日は人手が足りず、募集の仕方に工夫が必要である。

日曜日の参加人数が少なく心配していたが、企画スタッフが直前まで友人・知人に応援を頼みなんとか36人の参加となった。それにしても人数が少ないため後片付けを前倒しで行い、また雨で来場者・ゴミ量が少なかったこともあり、例年より早い午後11時半に片付けを終了し解散することができた。

経年で参加者数が増え活動の定着・広がりを感じるが、当日のみの参加、短時間の参加が多く、企画・運営のボランティアスタッフは少人数体制で負担が大きいのが課題となっている。当日のみの参加ではあるが、毎年継続して3日間フル参加してくれる人が若干ずつ増えとても心強い。



【ボランティア応募の動機は?】(参加者アンケートより)

- 中学生 ・楽しそう ・エコに興味がある ・友だちがするから など
- 高校生 ・クラス、クラブ、生徒会の活動として ・街をきれいにしたい ・人のために ・社会貢献 ・宿題で ・ごみを少しでも減らしたい ・おもしろそう ・スタッフTシャツが欲しい ・良い経験になる
- 社会人 ・去年やって良かったから ・エコに興味がある ・ボランティアに興味がある など
- ・勧められて ・ボランティア精神 ・環境問題に関心がある ・自分の地域の祭りの参考にしたい
- ・子どもと一緒にボランティア活動に参加したい など

2. 事前準備

例年は3月から企画ミーティングをスタートするところ、2009年度はこれまでの主力メンバーの転勤、引越、仕事の都合等もあり、集まることができないまま、やっさ祭り全体の実行委員会が進んでいく状況だった。新規事業の発掘はせず、「輪を広げること」、誰でも取組めるよう「マニュアルを作ること」を目標に5～7月に合計3回のミーティングを持った。細々とした準備はメールでのやり取りを中心に数人で進めた。



8月2日(日)事前学習会での駅前ゴミ拾いの様子(写真3点)。

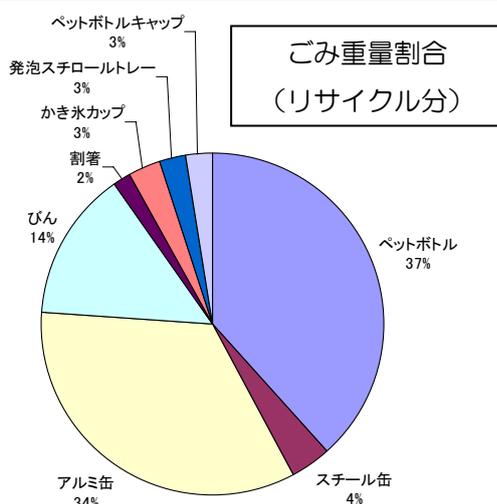
8月6日(木)の事前学習会では、屋台村で使うリユースカップの洗浄・消毒・袋詰めをした。リユースカップは昨年まで祭り前後の洗浄を業者さんをお願いしていたが、予算削減のためメンバーで行うことになった。8/6事前学習会時だけでは祭り1日目の必要個数を洗いきれないため、8/2事前学習会終了後もメンバー3人で作業を行った。

3. 分別・リサイクル

※色付き部分がリサイクル項目

単位：kg

	7日	8日	9日	3日間合計	前年比
ペットボトル	22.6	38.7	11.6	72.9	97.9%
スチール缶	3.1	2.1	2.4	7.6	51.4%
アルミ缶	17.1	37.4	9.6	64.1	91.2%
びん	10.0	14.4	3.0	27.4	55.8%
割箸	—	—	—	3.1	31.0%
かき氷カップ	1.2	2.1	2.3	5.6	81.2%
発泡スチロール	1.4	2.0	1.4	4.8	49.5%
ペットボトルキャップ	1.4	2.9	0.5	4.8	84.2%
燃やすゴミ	66.9	139.4	42.1	248.4	112.9%
燃やさないゴミ	2.1		0.2	2.3	31.1%
				441.0	82.2%



リサイクルにより削減できた二酸化炭素 (CO₂)

983kg

1世帯から出るCO₂の3ヵ月半分相当

※ 算出方法:「身近な地球温暖化対策 家庭のできる10の取り組み」(2007.4.環境省改定発行)を参考、リサイクルに出さずに捨ててしまった場合のCO₂排出係数より計算。係数は1本(枚)当りの数値となっておりCO₂削減量は概算。

※ 駅前会場分別ボックスでの回収分のみ。割箸は係数が分からず含まれていない。



★分別コーナー・リニューアル！★

これまで使ってきた分別ボックスは奥側と手前側に4個ずつの小分けボックスを入れるようになっており、コンパクトだが込み合うと捨てづらい、背面パネルがあるのでボックスの後ろ側でのナビゲートができないなどの難点があり、リニューアルを試みた。結果、1つひとつのボックスが大きいので中のビニール袋を取り替える回数が少なくすむ、後ろに立ってナビゲートできるなど改善された。また昨年までのパラソルからテントに変更。これも良かった。

ボックスは三原市公衆衛生推進協議会よりレンタル。タクシープール側の分別コーナーはこれまでのコンパクトタイプで対応。「ゴミ分別コーナー」の横断幕表示は高校生スタッフの手作り。



「割箸はこちらですよ」
ボックスの後ろ側からナビゲートできてやりやすかった。



タクシープール側の分別コーナーは従来のコンパクトタイプのボックスで。

《容器包装プラスチックについて》

2006年に三原市で容器包装プラスチックの資源回収が始まったのに合わせ、やっさ祭りでも容器包装プラスチックを資源として分別回収、ボランティアの手で洗って乾かしリサイクルにまわしてきた。運搬には三原市のご協力をいただいていたが、昨年(2008年)から協力いただけなくなり、エコレンジャー委員会で検討・協議の結果、今年度はペットボトルおよびキャップ、発泡スチロール製容器(カップ・トレイ・ふた付きパック)のみ資源として回収し、透明のプラスチック容器等は燃やすごみとして回収した。

プラスチック容器を燃やすごみとすることに対して来場者から戸惑いの声が多くあり、せっかくの啓発効果が期待できる機会でありながら残念な結果となっている。ペットボトル(およびアルミ缶・スチール缶)は毎日祭り終了後にチューリップ作業所の方に回収に来ていただき、発泡スチロール製容器はメンバーが自宅に持ち帰り後日(株)エフピコに持ち込んでいる。その他プラスチック容器はかなりの容量となるためエコレンジャー委員会の現在の体制では対応できず、来年へ向けて三原市へ協力をお願いをしていきたい。

《リサイクル率》

今年は雨に祟られ来場者が少なかったためか軒並み回収量が減っている中燃やすごみのみ増えており、プラスチック容器等を燃やすごみとしたことが影響を与えていると考えられる。例年50%を超えていたリサイクル率も下がっている。

$$\text{リサイクル率} : 190.3\text{kg}(\text{色付きの項目合計重量}) \div 441.0\text{kg}(\text{総重量}) = 43.2\%$$



発泡スチロール製容器を洗っているところ。奥のビニールシートに並べてあるのは割箸。こうしたボランティアスタッフの手間のおかげでリサイクルが可能となっている。



ペットボトルのキャップと割箸でつくったりサイクルアート♪ 小学生の時からボランティア参加の中一生なほちゃん&福山から毎年参加の強力メンバーの活躍！

【ボランティアをしての感想】(参加者アンケートより)

- ・ 座りっぱなしで疲れました(割り箸洗いで)。裏方の仕事をし、祭りを支えているんだと思った。
- ・ リサイクルの流れや三原の現状を聞いて勉強になった
- ・ ゴミ分別の大切さを知った。とても気持ちよかった
- ・ 大変だったけど、やりがいがあった

- ・ 疲れたけど、時間が過ぎるのは早かった
- ・ 1時間だけでしたが、思っていたより楽しかった。裏方の大変さも知ることができてよかった
- ・ 小さい子どもちゃんと分別をしていた

《花火会場》

ごみを捨てにくる人が短時間に集中する花火会場だが、年々協力的な人が増えている。今年は雨で花火実施が危ぶまれたため来場者が例年より少なく、ごみの量も少なかった。

単位：袋(90ℓ)

ペットボトル	2
缶(アルミ・スチール)	3
びん	0.3
燃えるゴミ	16

4. ごみ拾い

ボランティア参加者の人数が時間帯により大きく異なるため、人数が多い時はごみ拾いのエリアを広げて回ってもらったり、少ない時はごみ拾いに回れない状況もある。エリアを広げても過剰になってしまうこともあり、ボランティア活動後のアンケートでは「ごみがたくさんあって大変」という感想と「ごみがなかった」という感想とがある。

【ごみ拾いをしての感想】(参加者アンケートより)

- ・ とってもごみが多かった。1人1人がもっとエコということを考えてほしいと思いました
- ・ ごみがすごく多くてビックリした
- ・ ごみはたくさん落ちていることが分かった。みんなが拾えば減っていくと思った
- ・ ごみが少なくて拾うものがあまりなかった
- ・ 飲みかけのまま置いてある飲み物が多くあった
- ・ 大変だったけど、三原の街をキレイにできてうれしかった
- ・ タバコが多い!
- ・ タバコはポイ捨てされないような工夫が必要
- ・ 植え込みの中など、ごみは人の見えないところにたくさん捨ててあった
- ・ 見境なしにごみを捨てたらやはりダメだと思った

5. リユースカップ・マイ箸

2004年から取り入れたリユースカップ。一昨年までお客さんの任意での利用であったが、昨年より屋台村で販売の生ビールすべてで対応、今年はさらにチューハイやカクテルなどの販売もリユースカップで対応していただいた。屋台村出店者の理解と協力が不可欠な取組みだけにありがたいことである。

しかしながらリユースカップの回収率が昨年84.4%であったのが今年は76.6%と大きく後退した。繰り返し使ってこそ環境効果が上がるもので、LCA（ライフサイクルアセスメント）を考えれば8割以上の回収率で使いまわしていく必要がある。昨年は全面導入初年度で、分別コーナーとエコレンジャー本部での回収に加え、「回収隊」としてエコレンジャーの衣装で会場内をまわり回収に努めた。「リユース」が定着しているとは言えず、今年もさらなる回収努力が必要であった。ただし、やっさ祭りデザインのリユースカップを記念に持ち帰りたいという方もおられ、紛失分のうち少しでも多くのカップがお持ち帰りいただき活用していただいているようお願いものである。

回収率： $\frac{\text{回収カップ数 } 1261 \text{ 個}}{\text{使用カップ数 } 1646 \text{ 個}} = 76.6\%$

複数回「お代わり」をしている方もおられるが、少なくとも1261個分（約5kg）相当の容器包装プラスチックが節約できたことになる。



リユースカップを回収する
エコグリーン♪
子ども達に人気です(^_^)♪



三原やっさ祭りオリジナルの
リユースカップ



サンシープラザ調理室
使用後回収したカップはここで
洗い、消毒、袋詰めして、また
屋台村のお店へ貸し出される

マイはし販売の売上げは今年度50セットであったが、祭り会場での販売はゼロ。メンバーが日頃からの努力で販売しているものである。

【リユースカップ・マイ箸についてどう思いますか？】（参加者アンケートより）

- ・ 良い制度だと感じた
- ・ 洗うのは大変
- ・ ごみが出なくて良い案と思う
- ・ マイ箸を使っている人が少ない
- ・ もっと普及させたい
- ・ 自分の住んでいる地区でも実施してみたい

6. エコレンジャーon ステージ

《ステージ実施日時》

8月7日(金) 15:30～

8月8日(土) 14:00～

昨年、現代劇センター真夏座の方々にご協力いただいて作成した音源を今年もそのまま使用。三原出身の羽藤雄次さん(現代劇センター真夏座)は2007年より3年連続やっさ祭りに合わせて帰三、本番ゴミ魔王役で出演。ご指導もいただいている。

エコレンジャー役は中高生ががんばってくれ、頼もしかった。



当日本番前の練習



やっさ祭りステージにて。3Rシユートで「リデュース・リユース・リサイクル」をアピール

7. 広報・メディア等での紹介

- ◎三原テレビ(7月放送:ボランティアの募集)、(8月放送:環境取組みへの協力お願い)
- ◎中国新聞朝刊(8月4日付け)やっさ祭り特集④「ごみ削減 劇で面白く」
- ◎広報みはら(7月掲載:ボランティアの募集)、(8月掲載:活動内容のPR)
- ◎パネル展示(7月6日～28日三原市中央公民館にて)

8. 総括

三原やっさ祭り実行委員会にゴミへらし隊エコレンジャー委員会ができて6年目。活動を始めた2004年当時は祭りでのゴミ分別などとてもない!という雰囲気があったが、この6年の間に他地域でも同様の取組みがどんどん始まり先見的事例となった。「祭り中、忙しくて分別はムリ」という声があった他委員会でも年毎に項目を増やし分別していただけるようになったし、分別お構いなしにポイッとボックスに投げ入れて立ち去るような来場者もいなくなった。分別ボックスにゴミを持ってくるまでに至らずポイ捨て・置き去りする人が依然いるのは問題だが、この6年での変化は大きい。やっさ祭りでの取組みをどんなにがんばったとしても1年に1回3日間のことであり、普段の生活につながる啓発や他地域・他イベントに広がっていくことに大きな意味があると思う。

6年を迎え活動は2期目に入ったと言える。イベントでの分別・リサイクルはもはや当たり前のこととなり、今後どう発展・充実させていくか、多くの方々の智恵や力を合わせていただきたい。地球温暖化を始め環境問題への関心が高まっているのは確かだが、事態はより深刻になっている。「何かしたい」というボランティア参加者の思いを受止め、より多くの方が活躍できる場をつくり、環境活動に留まらず三原のまちづくりに貢献できる活動を目指していきたい。

ゴミへらし隊エコレンジャー委員会の取組み実施にあたりご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

第34回三原やっさ祭り実行委員会・ゴミへらし隊エコレンジャー委員会

【企画運営団体】(50音順)

かんきょう会議 浮城 <http://ukisiro.ptu.jp>
環境ネットワーク三原 <http://sakura.canvas.ne.jp/spr/muginko>
ネットワーク『みどりのはらっぱ』 <http://www.geocities.jp/netmihara>
三原市公衆衛生推進協議会

【ご協力団体】(50音順)

尾道市公衆衛生推進協議会
尾道港祭協会
きぼう作業所
ジャスコ三原店チアーズクラブ
如水館高等学校
チューリップ作業所
広島県立三原高等学校
現代劇センター真夏座
(社)三原観光協会
三原・西条掃除に学ぶ会
三原市
三原市ボランティア・市民活動サポートセンター
三原市立第三中学校